

令和元年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策	
		評価指標と活動計画	評価			
1 学校運営の充実	(1) 教職員研修を充実し、意識改革を図るとともに教育観・使命感の確立に努める。 (2) 地域の期待や時代の要請を視野に入れ、教育環境を整備し、特色ある学校づくりに努める。 (3) 教職員相互の協力体制を築き、校内組織が有機的に機能する学校運営を推進する。 (詳細レベル) ①教職員研修の充実 ②本校教育への理解と関心を高めるための積極的な働きかけ ③教職員間の協力体制の強化 ④学校行事の公開 ⑤地域貢献、ボランティア活動の推進	評価指標 ①職員研修会の実施回数 10回 (12回) ②-1 体験学習の参加者数 320名 (306名) 体験入部の参加者数 200名 (168名) ②-2 P T A総会・学年部会への参加率 31% (30.5%) PTA清掃活動を実施 年1回(1回) ②-3 学校ホームページの更新回数およびアクセス数 640回 (630回) 162,000アクセス(315,886アクセス) ②-4 マスコミなどによる学校活動の広報 350回 (343回) ③職員間協力度度 100% (100%) ④-1 学校行事の新聞掲載回数 30回 (38回) ④-2 文化祭来場者 1,200名 (1,038名) ⑤-1 各種ボランティア活動参加 350名 (475名) ⑤-2 清掃活動参加 (地域や校内を含む) 1,500名 (4,000名)	評価指標の達成度 ①職員研修会の実施回数 8回 ②-1 体験学習の参加者数 515名 体験入部の参加者数 287名 ②-2 P T A総会・学年部会への参加率 32.6% PTA清掃活動を生徒合同200名で9月1日に実施 ②-3 学校ホームページの更新回数およびアクセス数 635回 208,751 アクセス 2019年4月1日累積670916アクセス 2020年1月27日累積879667アクセス ②-4 マスコミなどによる学校活動の広報 336回 ③職員間協力度度 100% ④-1 学校行事の新聞掲載回数 12回 ④-2 文化祭来場者 935名 ⑤-1 各種ボランティア活動参加 475名 ⑤-2 清掃活動参加 (地域や校内を含む) 1,000名	評定 B A A A C B	総合評価 B (所見) ① 従来の「人権教育・講演会映画会」を含む人権教育に関する研修会を実施することが出来た。さらに、幅広く講演会等を開催したことで研修の機会となった。また、コンプライアンス研修会や情報セキュリティ に関する研修会等を実施し、資質向上を図った。 ②-1 体験学習、体験入部を同日実施したところ、大幅に参加者が増加した。来年度も早めに調整できるように対応したい。 ②-2 保護者の参加を促すため事前の広報に努めたい。保護者の活発な参加のもと文化祭バザーを実施できた。 ②-3 職員間で学校ホームページの更新が定着してきている。また、学校での出来事も定期的にアップされ、アクセス数も順調な状態を維持している。 ②-4 学校活動は活発であり、広報も充実している。 ③ 学校運営等について全職員が協力的に関わることで、教育活動全般において成果を上げることができた。 ④ 地域の方々や近隣の中学校に学校行事の参加をしてもらい、交流ができた。 ⑤ 各種ボランティア活動参加数においては目標数を上回ることができたが、清掃活動参加数においては清掃ボランティアがひまわり植えに変わり参加人数が減った。しかし、阪神大震災を振り返る機会を得て災害を教訓とすることができた。	① 現在取り組んでいる有効な研修を継続するとともに、これからの教師に求められる資質・能力を見極めながら、適切な研修を実施する。校務等で、昨年度より研修回数が減少した。 ②-1 市内の専門校との日程調整を行った結果、大幅な増加につながった。適正人数の参加を目指す。 ②-2 再来年度の中国四国高P連大会での発表に向け、P T A活動もより活発化すると思われる。役員間のLINEによる連絡体制は有効なので、今後とも継続したい。 ②-3 今後も更新回数及びアクセス数アップに努めたい。 ②-4 今後もホームページ、マスコミなどへの広報を積極的に行いたい。 ③ 各校務分掌や各学年に計画力と実行力のある主任を配置することで、協働的な組織体制を構築し、さらに次世代のリーダーを育成する取組が必要である。 ④ これからの学校行事は、ホームページや生徒会を中心にアピールに努めたい。専門高校としての特色ある学校行事を目指し、さらなる工夫・改善を図っていきたい。 ⑤ 来年度も各種ボランティア活動や清掃活動を行い、積極的な態度の育成や美化に努める心を育てたい。また、ひまわり畑の草抜き、整備などを通してできるだけ多くの生徒が関わられるような取り組みを目指したい。
		活動計画 ①各学期毎に職員の研修会を実施し職員の資質向上を図る。 ②-1 早めに中学校へ周知し、積極的な参加を呼びかける。 ②-2 P T A総会の日程や学年部会の内容の充実を図る。各種案内が確実に保護者に届くようにする。 ②-3 ホームページシステムの積極的な利用、広報に努める。 ②-4 ホームページ、マスコミなどを活用し学校の情報を積極的に広報する。 ③ ホウ・レン・ソウを徹底するとともに課単位によるミーティングを行い、業務遂行のための共通理解を深める。 ④-1 学校行事の取組を積極的にマスコミなどにプレスリリースする。 ④-2 文化祭の公開を実施し地域や他校生・中学生との交流を図る。ホームページ等で積極的に情報を発信する。 ⑤-1 地域が元気になる活動、各種ボランティア活動に積極的に取り組む。 ⑤-2 環境問題に興味関心を持たせるとともに、自主的に清掃活動を実施させ、物心両面からの美化活動に努める。	活動計画の実施状況 ① 教育委員会によるコンプライアンス研修及び人権研修をはじめ、外部講師を招いて各種講習会を実施することにより、職員の資質向上を図った。 ②-1 早めに中学校へ周知し、積極的な参加を呼びかけた結果、大幅な参加者増加につながった。 ②-2 P T A総会の案内は2回行った。役員への連絡は文書と併せ、LINEで確認できる設定にした。 ②-3 ホームページシステムの積極的な利用、広報に努めることができた。各担当教員での更新も回数が増加してきている。 ②-4 ホームページ、マスコミなどを活用し学校の情報を積極的に広報を行っている。 ③ 各課とも、必要に応じて勤務時間外であってもミーティングを実施し、業務遂行のための共通理解を深めた。 ④-1 体育祭などの学校行事にマスコミから取材をいくつか受けた。 ④-2 ホームページにて情報を公開し、近隣住民の方や中学校にも呼びかけを行った。 ⑤ 今年度は春の清掃活動の際に、「はるかひまわりプロジェクト」2年目の活動としてひまわりを植え育てるボランティアを実施した。			

【備考】評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

令和元年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	今後の改善方策
		評価指標	評価指標の達成度	評定	総合評価	
2 学習指導の改善	(全体レベル) (1) 生きる力を育むため、基礎・基本の確実な定着を図り自己教育力を高める。 (2) 確かな学力の育成を目指し、学習内容の厳選・創造及び指導方法の工夫・改善を行う。 (3) 個性の伸長を図り、専門的な知識・技術を習得させ、スペシャリストへの道を拓く。 (詳細レベル) ①授業時数の確保 ②授業技術の向上 ③各種資格取得の奨励 ④自己学習力の育成 ⑤实际的・体験的な学習の充実・発展	①自習率 1.0%以下 (0.86%) ②授業満足度 80%以上(81%) ③-1 全商検定3種目以上1級合格者 40名(31名) ③-2 技能奨励賞 60名(49名) ③-3 日商簿記検定2級合格 10名(5名) ③-4 ITパスポート試験合格 1名(1名) ③-5 建設業経理士2級合格(3月11日試験 5月結果発表) 3名(*名) ④-1 図書館利用者数 4,500名 (4,318名) ④-2 一人あたりの年間読書冊数 3.0冊 (3.5冊) ④-3 一人あたりの年間貸出冊数 1.9冊 (1.9冊) ④-4 図書館通信の発行回数 12回 ⑤-1 地域連携活動テーマ数 13テーマ (13テーマ) ⑤-2 ビジネスアイデアコンテスト参加チーム数 3種11チーム (3種10チーム) 企業とのコラボ回数 50回(50回) ⑤-3 市場流通可能な商品開発数 5商品(5商品) ⑤-4 実践的授業の試行 5回(3回)	①自習率 0.89% ②授業満足度 79.9% ③-1 全商検定3種目以上1級合格者 18名 ③-2 技能奨励賞 49名 ③-3 日商簿記検定2級合格 7名 ③-4 ITパスポート試験合格 2名 ③-5 建設業経理士2級受験者 5名(3月10日試験日 5月結果発表) ④-1 3,515名 (78%) ④-2 4.48冊 (3421冊/763名) ④-3 1.7冊 (1363冊/797名) ④-4 10回 (83%) (以上1/24現在) ⑤-1 地域連携活動テーマ数 13テーマ ⑤-2 ビジネスアイデアコンテスト2チーム(四国大学等主催) 0チーム(大阪商業大学主催) ビジネスプランコンテスト0チーム (日本政策金融公庫主催) 1種2チーム 企業とのコラボ回数 50回 ⑤-3 市場流通可能な商品開発数 5商品 ⑤-4 実践的授業試行数 5回	A B E B C A C A B B A E A A A	B (所見) ①本年度も校外での行事等に参加する機が多く出張も多かったため、授業振替が困難であった。 ②全学年で、授業に対する満足度は昨年度より微減したが、概ね良好であった。その成果を、学業成績の向上へと繋げて欲しい。 ③早朝補習や検定前1週間に放課後補習等を実施し検定の合格者増に取り組んだ。しかしながら、全商3種目以上1級合格者数は18名に減少した。一方で、情報処理関連の高度資格については目標を達成することができた。建設業経理士2級は、今年度から簿記部での取り組みとなった。各種資格の取得に向けて、引き続き計画的に学習する環境の整備が急務である。 ④各学年の「朝読」の取り組みや、各教科との連携及び「図書館祭」などの活動で生徒一人あたりの年間貸出冊数・年間読書冊数が改善した。	①可能な限り授業振り替えを実施しているが、校務の多様化もあり、年々振り替えが困難になっている。教職員の負担軽減に向けた検討も必要である。 ②昨年度と同様に平日の自宅学習時間が0の生徒が、全体の3割以上を占めている。なかでも2・3年生では4割という状況にある。引き続き、授業への取り組み姿勢の改善を通して、授業内容の理解を促進し、授業満足度向上へと繋げたい。 ③高度資格については、授業や補習だけでは限界がある。1年次から家庭学習時間の確保に努めるとともに、適切な課題等を出すことにより学習の定着を図る必要がある。また、強い学習意欲を継続させるためにも、部活動への入部促進、1年次のオリエンテーションや各学年会を通して資格取得の重要性を認識させたい。 ④今後も継続して図書館通信の発行・ビブリオバトル・図書館祭などの取り組みを実施する。また、各学年団と協力して「朝読」の取り組みを充実したものとしたい。
		活動計画	活動計画の実施状況			
		① 学校行事の精選を行うほか可能な限り振り替えを行い、授業時数を確保する。 ② 「学力向上」の実現のため生徒の実態にあった指導及び工夫改善を行う。 ③ 通常・検定前補習を充実させるほか個人指導を効果的に実施。 ④-1 図書委員を通じたホームルームでの広報活動や、イベントの企画を行い、入館しやすい図書館作りに努める。 ④-2 各学年と連携し、可能な限り「朝読」の時間を確保する。 ④-3 「ミニ・ビブリオバトル」「図書館祭」「POP作成」等を充実させ、広く啓発活動を行う。 ④-4 「図書館通信」が生徒に身近に感じられるよう工夫を凝らす。	① 本年度も昨年度と同様に出張等により、授業振り替えが多い状況となっている。限られた時間枠のなかではあるが、可能な限り授業振り替えを実施した。 ② 電子黒板の導入を受け、授業への活用に努め、わかりやすい授業への改善に取り組むことができた。 ③ 早朝補習や長期休業中の補習などを計画的に実施した。また、簿記検定や情報処理科の情報処理検定前1週間は放課後1時間程度の補習を実施することにより、検定合格への対策と生徒の意識向上を図った。 ④-1 「図書館祭」の取組や北海道の紹介レポートをロビーに展示した。 ④-2 各学年の協力で「朝読」の時間が確保できた。 ④-3 ミニ・ビブリオバトル実施。(6/20, 50名 7/17, 36名参加) 図書館祭実施。(11/12~12/10) POP作成実施。(39名) ④-4 「図書委員のおすすめ本」などを発信することができた。			

		<p>⑤-1 地域社会や企業等と連携した教育活動の実施</p> <p>⑤-2 ビジネスアイデアコンテストへの参加 課題研究における活動の実施 企業との連携による学習活動の実施</p> <p>⑤-3 地域企業との連携による商品開発の企画及び実施</p> <p>⑤-4 ICTや効果的な教授法等を導入した主体的・能動的な学びの実施</p>	<p>⑤-1 校外徳商デパートを実施し商業高校生としてのプロデュース力をアピールした。ビジネス研究部の校内模擬会社ComComを中心に、地域や企業と連携した活動を積極的に展開した。全国産業教育フェア新潟大会や徳島県ビジネスチャレンジメッセ等に出展し、地域社会や企業等と連携した教育活動を積極的に広報した。 (展開活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美波町、牟岐町との連携 ・JICA・徳島県連携事業 ・地元企業Webページ作成支援 ・防災キャンプの企画・運営 ・農工商連携6次産業化プロデュース事業 ・徳島県中小企業団体青年中央会提携事業 ・スタジアム学園祭 ・商品開発 ・ボランティア活動（インターアクト） <p>⑤-2 ビジネスアイデアコンテストへ2チーム参加し、地域企業から提示された「高校生による地域と企業の課題解決 ～電子書籍を活用した持続可能な社会づくり～」 「大変身！黒崎楽器」についてのビジネスアイデアを発表した。</p> <p>⑤-3 地域企業と連携し、ホストタウン国の商品開発に取り組んだ。また、11月の徳商デパートでは、ホストタウン活動の一環として実施した。 (開発した商品)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハチャプリ（ジョージアパン） ・ジョージアワインのロールケーキ ・モモ（ネパール餃子） ・カンボジア米の米粉クッキー ・ブッタークーヘン <p>⑤-4 商業科の授業の中で、ICTの技術を活用し、主体的に課題に取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商品開発 ・マーケティング ・ビジネス経済 	<p>⑤オリンピックのホストタウンイベントや徳島県ビジネスチャレンジメッセ等へ積極的に参加し、本校が取り組んでいる多くの教育活動を広報することができた。</p> <p>また、校外徳商デパートでは、できるだけ多くの生徒に地元企業との連携を体験させるとともに、地域に貢献できる実践力を養うことに繋げている。企業関係者と交渉する能力は、校外徳商デパートを通じて確実に向上している。</p> <p>校外徳商デパートは、そごうの時計台前で地元の特産物を使用した開発商品の販売を行っているが、地域貢献等を幅広くアピールしていることからbeyond2020イベントのモデル事例に選定されている。</p> <p>県内で開かれるビジネスアイデアコンテストには、今年2チームを参加させることができた。一方、事業の整理に伴い、県外のコンテストへの応募は見送ることとなった。</p> <p>ICT等を用いた実践的授業への取り組みは、商品開発、マーケティング、ビジネス経済の科目において展開した。</p>	<p>・2020大会の国際交流の取り組みでは、カンボジアのほか、ジョージアやネパールとの交流もあるとのこと。また、県内での聖火ランナーを務める予定だとも聞き、グローバルな活動をしていると感じた。</p>	<p>⑤ホームページ作成支援活動や徳商デパートによる商品開発、農工商連携による6次産業化プロデュース事業による商品開発活動等について、本年度も活発な展開ができた。これらの経験をもとに、工夫と改善を行い商業の専門高校として特色ある学校づくりに努め、商業教育の中心校として責務を果たしていきたい。</p>
--	--	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【備考】 評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

[令和元年度 学力向上実行プラン]

重点課題	重点目標	自己評価			学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価	総合評価		
2 学習指導の改善	<p>(全体レベル)</p> <p>(1) 生きる力を育むため、基礎・基本の確実な定着を図り自己教育力を高める。</p> <p>(2) 確かな学力の育成を目指し、学習内容の厳選・創造及び指導方法の工夫・改善を図る。</p> <p>(3) 個性の伸長を図り、専門的な知識・技術を習得させ、スペシャリストへの道を拓く</p> <p>(詳細レベル)</p> <p>①授業時数の確保 ②授業技術の向上 ③各種資格取得の奨励 ④自己学習力の育成 ⑤実際の・体験的な学習の充実・発展</p>	<p>評価指標 【全教科共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ICTや効果的な教授法を導入して、生徒の主体的で深い学びを導く (国語) 課題提出率98%以上 漢字検定受検者180人以上 (地歴) 課題提出率95%以上 広い視野に立って物事を考察できるための基礎的知識と学力の定着を図る (公民) 定期考査得点率60%以上 課題提出率95%以上 (数学) 課題提出率100% 数学の得意度(1~5)調査で1,2年生平均2.8以上 (理科) 単元毎にICTの活用 定期考査得点率65%以上 (保健体育) 救急救命法や妊娠、出産についての講義受講 生涯体育につながるような運動の基本技術の習得 (芸術) 演奏や作品の発表を2回以上行う。 発表では自己評価、相互評価を取り入れる (英語) 全商英検3級合格80%以上 ペア及びグループ活動を通して主体的に表現する機会を増やし、相互評価する。 (家庭) 課題提出率100% ICTの活用やグループ学習、実験実習の実施を目指す。 	<p>評価指標の達成度 【全教科共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ICTの活用が進み、生徒の理解の高まりや主体化に繋がっている。 (国語) 課題提出率はほぼ100% 漢字検定受検者は184名 (地歴) 課題提出率98% 基礎的知識と学力が十分に定着できておらず考察するところまでいかなかった。 (公民) 定期考査得点率60%以上達成 課題提出率は95%以上達成 (数学) 課題提出率はほぼ100% 得意度(1~5)調査で1,2年生平均2.83 (理科) ビデオ教材、プレゼンテーションソフト等を活用した授業を実施。 定期考査の得点率は科目やHRで差があり、50~70%内で推移 (保健体育) 救急救命法及び妊娠・出産についての講義を行った。 運動の基本技術を習得することが出来た。 (芸術) 演奏や作品発表を各学期2回行い、学期末には自己評価、学年末相互評価を取り入れることができた。 (英語) 全商英検3級合格率は37.3%にとどまった。ペアやグループでの活動を取り入れた。 (家庭) 課題提出100% グループ学習、実験実習を取り入れ成果を共有した。 	<p>評定</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>C</p> <p>A</p>	<p>総合評価</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>【全教科共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> 電子黒板の利用の定着化により、授業改善が進められている。 (国語) グループ学習等で能動的な授業に取り組んだが、ICTの汎用化は今後課題である。 (地歴) 教科書等の準備を徹底したうえで、身近な教材から物事を考察する力を育てる必要がある。 (公民) 課題提出等は概ねできているが、本質的な学力定着や時事問題への関心度は低い。 (数学) 誤答内容を精査し次回に活かす。苦手意識は減少している。 (理科) ICTの活用が内容理解につながる確証が得づらい。科目によって、ICTの利用頻度が異なる。 (保健体育) 知識や技術を活かす能力を体得させることが課題である。 (芸術) 演奏や作品発表は授業への動機付けになった。ICTを活用して拡大した楽譜や作品を見せたり、演奏技法や制作技法などの映像で理解を深めることができた。 (英語) スピーチコンテスト県大会優勝、全国大会出場。昨年度より参加者は増えた。個々の力が全体の向上心に繋がるとよい。 (家庭) 生徒たちの学びが実生活につながるように教材や時間配当を考え計画していきたい。 	<p>授業力向上のために、教科会等を持ち、情報交換を積極的に行う。また、電子黒板等のICT活用によって授業改善を推進する。</p> <p>生徒の興味関心を高める学習内容を工夫し、生徒が質問したり意見を言うなど主体的に取り組む授業づくりに努める。</p> <p>臨時休校分の取り戻しを、どのように行うのか、今後状況を見ながら、検討願いたい。</p> <p>城東高校の全県一区化による、入試情勢の変化の波に乗り遅れないようにしなければならない。</p> <p>徳商もそれに対応できるシステムを準備すべきであるし、大学進学にも対応できる学力の保障をお願いしたい。</p> <p>個別指導を重点的に実施すると同時に生徒間の活動を更に活性化させる。得意度1,2年生平均2.9を目指す。(理科) 教科担任間でICTコンテンツや教材等の共有などを行い、授業スキルを向上させることで、内容理解の深化を図る。</p> <p>(保健体育) 生涯にわたって活用できる知識や技術の習得を心掛ける必要がある。</p> <p>(芸術) ICTを活用するためにはパワーポイントなどで生徒にわかりやすく注目させる見せ方を工夫する教材研究を行う必要がある。</p> <p>(英語) 全商英検及び実用英検の上級受検者への指導が今後の課題である。</p> <p>(家庭) 家庭科で学んだことが実生活に結びつき自らの生活を見直すことができる力がつくような授業や活動を目指す。</p>
		<p>活動計画 【全教科共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の実態に応じた授業法の工夫と教科内外での情報交換と研鑽 (国語) 課題、ノートの点検と評価 漢検の受検準備をサポート (地歴) 準備物の徹底を図り、机間指導や提出物の点検等を通して学習状況を把握し、個々への指導を充実させる。 (公民) 課題、ノートの点検と評価 現代社会の課題に興味・関心を持たせる。 (数学) 課題、ノートの点検と評価 基礎問題の反復と細やかな指導、グループ学習を行う。 (理科) 視聴覚教材等の計画的利用 生徒の実態把握と問題の精選 (保健体育) 救命法については欠席者にも後日指導を徹底 選択種目で自己の課題に応じた取り組みを行わせる (芸術) 個々の生徒の段階に応じた指導を行い、サポートする。 (英語) 電子黒板を利用し効率的に情報を伝える。 個々の活動への指導と支援 (家庭) 課題の点検と評価 ICTを活用し、実験実習を5/10以上取り入れる。授業の学びが実生活に繋がる指導を行う。 	<p>活動計画の実施状況 【全教科共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科内での新しい取り組みや情報交換は進みつつあるが、教科を超えた情報交換や研鑽は今後の課題である。 (国語) 課題等の確認により、学習習慣と基礎力の定着を図った。 漢検用の教材を配布、図書館に配置する等、受検者サポートに努めた。 (地歴) 授業中に必ず副教材を持ってくるか確認した。机間指導や提出物の点検を通して、基礎的知識の定着を図った。 (公民) 課題、ノートの点検と評価は的確にできた。生徒が自己表現できるような指導についても発問することにより自己表現できるように努めた。 (数学) 課題、ノートの点検を定期的実施した。基礎問題の反復練習において個別指導を実施した。 (理科) 電子黒板を利用し、ICTの活用を努めた。考査前には演習プリントを利用し、生徒の理解力向上に努めた。 (保健体育) 救命法講義欠席者に後日指導を実施。 種目の選択により、それぞれの課題に応じた取り組みを行わせた。 (芸術) 演奏課題、作品において、個々の生徒の段階に応じた指導を行いサポートすることができた。 (英語) 早朝補習(2,3年生)、授業(1年生)で問題集等を活用し、英検対策を行った。 (家庭) 学びが実生活につながっているかどうかの確認は難しいが、生徒たちの積極的な授業への意欲は感じられる。 			

令和元年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価			学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策	
		評価指標と活動計画	評価	評価			
3人権教育の徹底	(全体レベル) (1) 人権尊重を基盤とする普遍的な視点をすべての学校教育活動に位置づけた人権教育を推進する。 (2) これまでの成果を踏まえ、具体的な人権課題に即した個別的・普遍的なアプローチによって人権尊重の理念を深めるとともに、課題解決に向けた実践的な意欲や態度を培う。 (3) 学校、家庭及び地域社会と連携を図り、生徒の自主的活動を支援する中で、人権意識の高揚と人権問題を解決する実践力を養う。 (詳細レベル) ①教職員の人権意識の高揚を図る研修の充実 ②生徒の主体的な活動を促すホームルーム活動の創造 ③生徒の自主活動の活性化	評価指標 ① 教職員人権研修の実施回数 3回(4回)	評価指標の達成度 ①教職員人権研修の実施回数 4回	評定 A	総合評価 A (所見) ① 校内では、予定通り教職員人権研修を実施した。全職員・生徒対象講演会後には必ず感想文を作成する振り返りの時間をもち、人権意識向上に努めた。 ②学年団で共通理解のもと人権問題ホームルーム活動を実施した。 5月16日(木) 6月27日(木) 10月17日(木) 1月30日(木) ③-1 都合により人権部員の参加数が少なくなってしまった。 ③-2 人権部員が調査研究した内容を全校集会および校内放送で4回発表。 5月23日(木) 9月27日(金) 12月23日(月) 1月23日(木) 3月(中旬実施予定) ③-3 女川小学校との交流については、震災後継続的に行っている。環境活動に加えて、防災・交通マナーなどの活動交流をテレビ会議により実施した。今年度は意見交換が主な内容となっている。	・徳商が制服の変更に ついて、多面的な視野で検討していると聞いて、好ましいことだと思った。 ・一般社会でも女性のパンツスーツや靴・メガネの着用について問題視されている。性差にとられない制服を設定できたらいいのではないか。	① 2020年度、本校は徳島市・佐那河内村人権教育研究会開催校になる。県教委人権課指導のもと、さらに研鑽を積む必要がある。 ②人権問題ホームルーム活動に関して、学年会を開き、共通理解を深められるよう今後よく熟考する必要がある。 ③ 生徒主体の活動による人権教育は大変効果的である。全校生徒の人権意識を高められる生徒の自主的な活動を継続させたい。 今年度も、人権部(PEACH)の活動部員数が少なかったため、校外活動への参加が厳しかった。積極的な勧誘を行い、部員数の増加を図る必要がある。
		②人権問題ホームルーム活動の充実 具体的な個人人権課題に関する人権学習の実施回数 4回(6回)	②人権問題ホームルーム活動の充実 具体的な個人人権課題に関する人権学習の実施回数 4回	評定 A			
		活動計画 ① 全教職員の人権意識高揚に向けた研修会の実施 ② 教職員の人権感覚を高揚させるための人権関係の資料作成 ③-1 校外で行われる中高生による人権研修会への参加促進 ③-2 人権部員による全校生徒への人権啓発活動の実施 ③-3 女川小学校支援の積極的参加と支援活動報告	活動計画の実施状況 ① 7月18日(木) 全教職員対象に社会教育用資料「すべての人が自分らしく生きられる社会をめざして」(県教委人権教育課より配布冊子)を用いて、人権意識高揚に向けた研修および高特人研中部支部主事会(6/5)研修内容をまとめて制作した資料をもとに教職員研修会を実施。 <全職員・生徒対象> 7月11日(木) 阿波市民劇団による人権劇「千の舞い〜ふるさとへ帰りたい〜」 12月17日(火) 外部講師による講演会「貧困と共に生きる子どもたち」 12月23日(月) 人権映画「あん」鑑賞 ② 人権問題ホームルーム活動において、具体的な個人人権課題に関する人権学習を予定通り4回実施した。 ③-1 12月22日(日) 「中・高生による人権交流集会」に生徒3名参加し、他校生と交流活動を行った。 ③-2 人権部員による全校生徒への人権啓発活動を実施した。 第1回(5/23) 「被害者支援」について(外部団体からのパンフレット利用) 第2回(9/27) 「障がい者の特性を知ろう」 第3回(12/23) 「予断と偏見」 第4回(1/30) 人権映画「あん」感想文から振り返って考えてみよう ③-3 防災・交通マナーなどの活動交流をテレビ会議を利用して実施した。				

【備考】 評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

令和元年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価			学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策	
		評価指標と活動計画	評価指標の達成度	総合評価			
4 生徒指導の深化	(全体レベル) (1)全教職員の共通理解のもとに、家庭との連携を密にし、信頼感に満ちた生徒指導を推進する。 (2) 基本的生活習慣を確立させ、道徳・規範意識を高め、責任を重んじる態度の育成に努める。 (3) 部活動を奨励し、連帯感や愛校心を培い、社会人として望ましい資質・態度を育成する。 (詳細レベル) ①商業高校生としての美しい振る舞いの育成 ②基本的生活習慣の確立 ③規範意識と道徳的考え方を深化させ、いじめのない豊かな人間関係を醸成 ④部活動を通じた心身の調和のとれた生徒の育成及びあらゆる機会でのリーダーシップを発揮できる生徒の育成	評価指標 ①-1 生徒指導理解率 教職員 100%(100%) 生徒 100%(96%) ①-2 身だしなみ達成率100%(98%) ①-3 あいさつ実施率 100%(94%) ②-1 皆勤賞の取得率 50%(48%) 精皆勤賞の取得率 75%(76%) ②-2 遅刻率 1.0%以下(0.3%) ③校則等の遵守意識率 100%(93%) ④-1 部活動加入率 95%(94.3%) ④-2 壮行会の開催 4回(3回) ④-3 地域や中学生との交流会の実施 20部活動(20部活動) ④-4 全国大会・四国大会出場部数 20部活動(20部活動)	評価指標の達成度 ①-1 生徒指導理解率 教職員 98% 生徒 85% ①-2 身だしなみ達成率 98% ①-3 あいさつ実施率 96% ②-1 皆勤賞 40%(1月27日現在) 精皆勤賞 74%(1月27日現在) ②-2 遅刻率 0.3%(1月27日現在) ③校則等の遵守意識率 84% ④-1 部活動加入率 97% ④-2 壮行会の開催 3回 ④-3 地域や中学生との交流会の実施 18部活動 ④-4 全国大会・四国大会出場部数 17部活動	評定 B B B B	総合評価 B (所見) ①身だしなみ・挨拶等はきちんとしており、来客者からも高い評価を得ている。数値的にも、ほぼ満足できるレベルに達している。今後とも指導を徹底するとともに、美しい振舞いのできる人間育成に努める。 ②皆精勤率ともに昨年度より数値は低下したが、高いレベルを維持することができた。今後とも校門前指導等を徹底していく。 ③学校全体に高い遵守意識が備わっており、意識率も昨年同様高いレベルで維持することができた。 ④1年生の入部率100%は本年度も達成することができた。部活動ごとに中学生との交流会を計画し行った。	・徳商の生徒指導については、一般には申し分のないレベルであると思うが、先生方の高い理想を求める意気の表れとして「B」を受け止めている。 ・今回の臨時休校措置で、生徒が繁華街に外出する等の問題はないか心配したが、メールやHP、担任からの電話指導もあって本校では特に問題ないと聞いて安心した。 ・学科再編と併せて制服の変更を考えていることができた。保護者としての感触では、生徒は素直に「嬉しい」と感じると思う。 ・ジャンパースカートは身長の変化に対応しにくい点、夏の暑さが厳しい点などで、変更した方がいいと思う。 ・徳商生が制服をきちんとしたスカート丈で綺麗に着ているのを見ると、さすが徳商だと感心して見る面もある。 ・新しい制服になると、指導も新たになって手がかかるのではないのかと心配する。 ・要望として、ぜひ「全国優勝」できるような運動部を育ててほしい。 ・スポーツの指定競技推薦等を活用して、かつてのようなスポーツ強豪校を目指してほしい。	①③引き続き、HR活動やSHR時を利用して、人として望ましい振る舞いや行動について考えさせる時間を持つ。また、保護者との連携を図り、個々の生徒に応じたきめ細かい指導を行う。 ②今後とも皆勤・精勤率の向上に努める。自己の健康管理の重要性を認識させ、絶えず注意を喚起する指導を徹底させたい。 ③今後も、学年集会・ホームルーム活動・授業・部活動等学校生活のあらゆる機会を通して、集団生活や社会生活を送るために必要な礼節やマナーを身に付けさせる。また、各学年と連携し、生徒の状況把握に努め、啓発活動を定期的に行う必要がある。 ④四国大会・全国大会への出場部活動数が昨年度に比べて減少しているため、生徒が部活動に力を注ぎやすい環境を作っていく。各部において、今後も切磋琢磨し、全国大会出場部数を増やしていきたい。部活動の成績は、学校全体としての連帯感や愛校心を培うことに繋がってくる。より一層四国・全国大会等の成績が伴うよう取り組んでいきたい。 1年次の入部率は100%であるが、2年・3年と学年を上がるごとに入部率が低下している。部活動に3年間継続して取り組めるように工夫したい。
		活動計画 ①-1 あらゆる機会を通して、美しい振る舞いが社会人として必要な資質であることに気づかせる ①-2 全職員による身だしなみ指導を徹底し、生徒の意識を深化させる。 ①-3 あらゆる場面で、好感の持てるさわやかなあいさつが交わせるように指導する。 ②-1 家庭と連携し基本的生活習慣の育成を促すとともに、登校指導や月間の遅刻回数が2回を上回らないように目標を設定し、時を守ることにに対する意識を高めさせる。 ②-2 遅刻累積の多い生徒に対して、保護者を交えて面談を実施する。 ③ 面談等で生徒の実態を把握し、学年団・各課の連携のもと日常的に指導する。 ④-1 部活動加入の継続を図る。 ④-2 四国・全国大会に向けて壮行会を開き士気を高める。 ④-3 部活動単位で必要に応じて積極的に地域や中学生との交流会を実施する。 ④-4 四国・全国大会の出場に向けて活動をさらに活性化させる。	活動計画の実施状況 ①-1 HR活動や各種の集会をとおして、商業高校に学ぶ生徒としてより良い社会となるための基本的な考え方について指導し、理解を促した。 ①-2 各学期および学校行事など機会を捉えて全学年の指導を徹底した。 身だしなみ指導実施回数 6回 ①-3 登下校指導やHRなどをとおして、さわやかな挨拶をかわすよう指導した。 ②-1 保護者への連絡を密にするなど連携を図った。また、少数であるが遅刻を重ねる生徒がおり、家庭と学年主任・担任が今後の対策を協議した。 ②-2 遅刻指導については、月3回以上遅刻した生徒に対し、遅刻指導を行った。次年度に向け各学年主任と効果的な指導方法について協議をしている。 ③ あらゆる教育活動をとおして道徳的な考え方や規範意識を育むよう、指導を重ねた。駐輪場の清掃時や各クラスの指導の場において啓発した。 ④-1 学年が上がるほど加入率は下がるが、ほとんどの生徒が最後まで続けていた。 ④-2 壮行会を行うことで四国・全国大会への士気を高めることができた。 ④-3 部活動単位で地域のクラブや中学生との交流が行えた。 ④-4 たくさんの部活動が四国・全国大会に向けて活動を活性化できた。				

【備考】評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

令和元年度学校評価総括評価表

重点課題	自己評価	評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策	
		評価指標と活動計画	評価指標の達成度			評定 : 総合評価
5 進路指導の充実	<p>(全体レベル)</p> <p>(1) 自己の特性を理解させ、自らの在り方・生き方を考えさせる進路指導の充実を図る。</p> <p>(2) 望ましい勤労観・職業観を育成し、生徒の希望・能力・適性に応じた進路の実現を図る。</p> <p>(3) 進路開拓を推進し、進路先の確保に努める。</p> <p>① 進路指導のガイドライン設定と教職員への周知 ② 進路説明会の開催と進路相談の計画的な実施 ③ 進路情報の迅速・確実な提供 ④ 個別指導の充実 ⑤ 個性・能力の伸長と適切な進路サポート ⑥ 求人獲得と職場開拓</p>	<p>評価指標</p> <p>① 対教師ガイダンス・研修会実施回数 21回 (27回)</p> <p>② 校内進路説明会・相談会実施回数 25回 (26回)</p> <p>③-1 進路資料室の利用クラス 40クラス (34クラス) ③-2 全学年新聞週課題 年間20回 新聞日誌 年間122日</p> <p>④ 進路決定に対する満足度 96% (96.8%)</p> <p>⑤ 補習実施率 100% (100%)</p> <p>⑥-1 訪問企業数 235社 (233社) 会社見学 75社 (83社) 生徒 180名 (191名)</p> <p>⑥-2 就職内定率 100% (100%)</p> <p>活動計画</p> <p>① 各学年と就職課・進学課との情報交換会を実施 教師対象の進路研修会・勉強会の企画・実施</p> <p>② 校内進路説明会・相談会を計画的に実施 外部講師による就職講演会の実施</p> <p>③-1 利用しやすい進路資料室作りの実施 生徒・担任・保護者への迅速かつ正確な情報伝達</p> <p>③-2 読解力・表現力向上のための新聞を使った活動の導入</p> <p>④ 進路実現に向けて生徒の意識付けをするガイダンスを実施</p> <p>⑤ 早朝補習の実施</p> <p>⑥-1 求人獲得とミスマッチ防止を図るための企業訪問を実施</p> <p>⑥-2 進路指導における最重要課題に位置づけ、本校の教育活動の全体を通じて展開</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>① 対教師ガイダンス・研修会実施回数 27回実施</p> <p>② 校内進路説明会・相談会実施回数 28回実施</p> <p>③-1 進路資料室の利用クラス 34クラス ③-2 全学年新聞週課題 年間15回 新聞日誌 年間122日</p> <p>④ 進路実現に向けての生徒の達成感 98.8% 進路決定に対する満足度 98.0%</p> <p>⑤ 補習実施率 実施率100%</p> <p>⑥-1 訪問企業数 244社 会社見学 83社 生徒 139名</p> <p>⑥-2 就職内定率 100%</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>① 3年生への必要な情報提供および生徒状況の把握と連携は的確に行うことができた。低学年の効果的な進路指導を継続させたい。</p> <p>② 生徒への進路説明会・相談会はガイダンス行事および授業での進路室利用をさらに充実させたい。</p> <p>③ 1・2年生の特に3学期の進路室利用が増加した。また新聞日誌を全学年全クラス実施のため、新聞を閲覧する生徒が毎日進路室に入室している。そのため特に1年生が進路室に入室しやすい雰囲気になってきている。</p> <p>④ 進路実現満足度を上げるために、ミスマッチ防止の事前研究体制をさらに整えること、また保護者との意思疎通をさらに図る必要がある。</p> <p>⑤ 4月～1月末まで実施</p> <p>⑥-1 5月より就職担当教員企業訪問 244社訪問</p> <p>⑥-2 生徒の会社見学を83社実施。</p>	<p>評定 : A</p> <p>総合評価 : A</p> <p>(所見)</p> <p>① 3年生学年団への必要な情報提供および生徒状況の把握はできたが、教員間の連携が不十分であった。1・2年生の段階的な進路指導のあり方をさらに強化させる必要がある。</p> <p>② 生徒への説明会等は、LHRでの進路室利用をさらに充実させたい。</p> <p>③ 新聞日誌はコメント記入欄で、気づきや文章内容の深さにかなり差があるので、さらに検討しながら進めていきたい。新聞週課題は、学校行事や検定期を見合わせながら次年度の計画を立てたい。</p> <p>④ 3学年と進路指導課との組織的な連携をさらに充実できるよう取り組んでいきたい。</p> <p>⑤ 補習を通して、適切な時期に適切な指導を行うことを継続させたい。</p> <p>⑥ 生徒の会社見学は、ミスマッチ防止の点において大変有効であった。就職内定については、学校・生徒・保護者・関係諸機関との連携を取りながら今後も100%を目指したい。</p> <p>⑥ 入学後からの系統的な進路指導体制のさらなる充実に向けて取り組むことが必要である。進路希望調査と面談の充実や、早期からの進路研究への意識付けを各学年団と連携を取りながら進めたい。</p>	<p>本校では部活動等での素晴らしい活躍がある。それを生かし、またそれに加えて小論文・面接等でのアピール力を身につけて、国公立大学等への進学実績をつくる必要がある。</p> <p>その点、新聞を活用した学習や、小論文講座が新たな取り組みに加えられたことは、結構なことだと思う。</p> <p>新型コロナウイルスによる世界的な経済の混乱により、企業の業績悪化は免れない。</p> <p>今後の求人状況が大変心配される。厳しい状況を迫られると思うが、生徒の御指導よろしくお願ひしたい。</p>	<p>①②③ 低学年における進路HR活動や学年集会の時間がとれず、早期に意識づけをすることが厳しい体制となっている。学年目標を決め、担任による進路LHRを実施計画中である。学年団と相談しながら、ガイダンスと組み合わせて取り組めたらと考えている。段階的な進路指導の体制を整え、充実させることが大きな課題である。</p> <p>④ 保護者との意思疎通をさらに図るため、学年ごとに面談・保護者会を充実させたい。</p> <p>⑤⑥ 生徒の希望と適性を見極めた適切な進路指導に心掛けたい。</p>

令和元年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策	
		評価指標と活動計画	評価指標の達成度			評価 総合評価
6 情報化・国際化への対応	(全体レベル) (1) 施設・設備の充実を図り、情報活用能力と情報モラルの育成を図る。 (2) ICTの活用等により、教科指導の充実や校務の効率化を図り、教育の情報化を推進する。 (3) 自国の文化を正しく認識し、異文化との相互理解を深め、国際社会に生きる資質を養う。 (詳細レベル) ① ICT環境整備の推進と情報モラルの育成 ② ICTの活用による授業改善と校務の効率化 ③ 自国の文化及び異文化への理解	評価指標 ① クリアデスク実施率 90%(90%) セキュリティポリシー遵守率 100%(100%)	評価指標の達成度 ① クリアデスク 90% (90%) セキュリティポリシー遵守率 100%(100%)	A	A	
		② ICT活用度 授業でのICT機器利用度 50%(42%) パソコン教室の利用度 90%(90%) 共有フォルダの利用度 100%(100%)	② ICT活用度 授業でのICT機器利用度 46% パソコン教室の利用度 98% 共有フォルダの利用度 100%			A
		③ 国際交流活動回数 70回(70回)	③ 国際交流活動回数 70回	A	① クリアデスクが十分ではない教員もいるが、概ね良好である。 ② 6つのパソコン教室の稼働率は高い。昨年度導入された電子黒板の利用度も昨年度よりは高くなっている。今後、できるだけ多くの教員が効果的に電子黒板を活用した授業を展開できるよう、推進していきたい。 ③ カンボジアとの交流は予定通り行われており順調である。県知事よりホストタウン特使にも任命され、多くの活動に取り組んだ。ドイツとの交流は受入を予定通り実施し、7名の生徒が本校生徒の家庭でホームステイを行い交流を深めることができた。本校生徒の渡航については実現できなかった。その他、東京2020大会事前キャンプで徳島に来ているカンボジア選手団やジョージアパラリンピック関係者、JENESYS訪問団(カンボジア政府関係者)の受け入れも行った。	
		活動計画 ①-1 情報セキュリティポリシーにのっとり、情報の漏洩防止を図る。 ①-2 校内情報セキュリティの強化に向けたシステムの再構成を企画する。 ①-3 クリアデスク推進日を設け、机上の整理、情報資産の取り扱い向上を図る。 ②-1 各教科の特性や生徒の実態を踏まえ、ICT機器を活用した授業実践を推進する。 ②-2 職員用サーバを活用し、校務の効率化と情報の共有化を推進する。 ③ カンボジア・・・生徒の渡航1回 生徒受入1回 ドイツ・・・生徒の渡航1回 生徒受入1回	活動計画の実施状況 ①-1 情報セキュリティポリシーを改訂し情報の漏洩防止につながっている。 ①-2 校内情報セキュリティの向上のためパスワードの強化などセキュリティ強化を図っている。 ①-3 クリアデスクの呼びかけを実施し、情報資産の取り扱い向上につながった ②-1 昨年度より、24教室に電子黒板が導入された。電子黒板を活用した公開授業も実施した。活用が定着してきている。 ②-2 昨年度、教員用ファイルサーバを再構築し、セキュリティも向上し、共有フォルダ等の活用はほぼ定着した。 ③ カンボジア・・・生徒の渡航 2回 生徒受入 0回 訪問団受入 2回 ドイツ・・・生徒の渡航 0回 生徒受入 1回 ジョージア・・・訪問団受入 1回			

【備考】評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

令和元年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価		
7 健康・安全・防災 環境・主権者教育 の推進	(全体レベル) (1)生涯にわたって心身共に健康であるための基礎的な身体作りや食習慣を身につける。(食育) (2)自他の生命を尊重し、健康の保持増進と安全・防災意識の高揚を図る。 (3)整理・清掃・整頓・清潔(4S)を徹底して環境美化に努め、奉仕する態度や公共心を養う。 (4)学校版環境ISO認定校として実践を推進し、環境問題への関心を高める。 (5)有権者として、自らの判断で適切に権利を行使できる政治的教養を身につける。 (詳細レベル) ①健康教育の充実 ②安全・防災意識の高揚と実践力の育成 ③校内美化に向けての実践力の育成 ④環境教育の充実 ⑤主権者教育の充実	評価指標 ①-1 食に関するアンケート調査 年1回(1回) ①-2 3年生を対象として卒業前に「地産地消の料理講習会」を実施する。 年1回(1回) ①-3 食に関する展示や食育通信の発行を通して、生徒・保護者への啓発を行う。 年2回(2回) ①-4 保健だよりの発行 12回(12回) ①-5 ホームルーム活動 年1回(1回) ①-6 飲酒・喫煙・薬物乱用防止授業の実施 年1回(1回) ①-7 保健室利用者数(相談対応含む) (666名) ①-8 心肺蘇生法講習会 1回(1回)	評価指標の達成度 ①-1 実施し、調理実習などに活用している。 ①-2 12月に実施。 ①-3 5月のPTA総会および10月の文化祭で展示を実施。食育通信は随時発行 展示 2回 ①-4 保健だより発行 12回 ①-5 ホームルーム活動 1回 ①-6 薬物乱用防止教室 1回 ①-7 保健室利用者数 811名 3/1付 ①-8 心肺蘇生法講習会 1回	総合評価 A (所見) ①-1 食に関するアンケートを実施、アレルギー等の確認を行い、3年生は調理実習等授業に生かし2年生は修学旅行の食事に生かすことができた。 ①-2,3 12月に徳島の郷土料理の講習会を行い1~3年生20名が県産の食材を使った料理を学んだ。(地産地消)年間を通して、フードデザインを選択している生徒が中心となり食育通信として、季節にあった食生活を示したり、環境に配慮した持続可能な食生活について啓発を行った。 ①-4~8 生徒が抱える健康課題に対して、関係機関と連携しながら、保健指導・講習会等を実施し、適切に対応した。 ②夏休み中に実施の高校生の防災講習会に参加したクラブ員が学んだことを(生徒4名)パワーポイントにまとめて発表した。自分自身の学びを発表できて良かった。 ③環境チェックを行うことで教室環境を確認することができ、不備な点を修正することができた。 ④-1,2 ゴミの分別、節電・節水を各クラスで呼びかける機会を設けた。身近なクラスメイトが呼びかけることによって気付くところがあったと思う。しかし、電気・水道の使用量は数ヶ月分まとめとなるので意識が定着するのは難しい。 ⑤講演等だけでなく、ホームルームや授業等において、主権者としての意識を高めることが必要である。また、教員の意識の醸成も必要である。	①食生活への関心が高いということを活用して地産地消や食品ロスを考える食育だよりの充実を図りたい。本年度の状況を踏まえ、きめ細やかな指導を継続して行う必要がある。 ①生徒が食生活を見直せるような呼びかけを生徒が自身ができる方法を考えて実践につなげていきたい。 ②12月に行った避難訓練と防災講演会のアンケートは、よく学べた、まあ学べたと答えた生徒が90%以上であった。身近な防災、減災を実現するために100%を目指したい。 ④-1,2 ゴミの収集場所を徹底していく。新年度より水・電気の使用量をグラフにして教室掲示を行い節水・節電を呼びかける。 ⑤ 学校全体として主権者意識の醸成を図る。
		活動計画 ①-1 生徒の食習慣の実態を把握し食と健康、食に関する自己管理実践能力を育成する。 ①-2 食の自立に関する啓発活動を行う。 ①-3 PTA総会、文化祭の時に実施予定。 ①-4 健康に関する情報発信を行う。(職員生徒への啓発・掲示を行う) ①-5 生徒の課題である健康問題を取り扱い、生活の改善を図る。 ①-6 1年生で喫煙・飲酒・薬物乱用防止授業を行う。 ①-7 健康・安全に関する意識を高め、けがの予防やメンタルヘルスを保つ取り組みを行う。 ①-8 講習を通じて救命についての意識、実践力を育成する。 ②防災クラブ(生徒会・家庭クラブ)が中心となり、全校生徒を対象として啓発活動を行う。 ③環境委員が清掃状況チェックを行い、自己評価し改善に生かす。 ④-1 環境委員がゴミ分別状況調査を行う。 ④-2 環境委員会を中心に節電・節水を呼びかける。 ⑤ホームルーム活動や主権者教育に関する資料の配付や発表会、講演会、模擬投票等により、自らがより良い国家を作り上げる主権者であることを気づかせ意識を深化させる。	活動計画の実施状況 ①-1 食に関するアンケートを実施した。 ①-2 小麦粉を使った料理コンクールへの参加。3年生全員が出品した。 ①-3 健康に関する販売・展示を通して情報発信を行った。 ①-4 保健だよりの発行、文化祭保健展、掲示物等を通して健康に関する情報を発信した。 ①-5 11/28ホームルーム活動を実施し、心身の健康づくりのための取組を行った。(1年生活習慣・2年メンタルヘルス・3年歯科保健) ①-6 2/20に警察署スクールサポーターを講師に迎え、薬物乱用防止教室を開催した。 ①-7 保健室利用者に対し、必要に応じた個別指導を通して、健康づくりの取組を行った。 ①-8 2/18に1学年を対象に、普通救命講習を実施した。 ②9月2日の始業式後に全校生徒に対して防災アピールを行い、家族での防災対策を話し合うように呼びかけた。 ③1学期には2回行った。身の回りの環境や節電・節水を気遣えるように定期的実施していききたい。 ④-1 清掃時にゴミを置くところに担当教諭と係生徒が立ち、ゴミの分別をチェックした。 ④-2 電気の使用量・水道使用量をグラフにして各教室に掲示し、節電節水を呼びかけ、自分たちにできることを考える機会を作った。 ⑤模擬投票は講演時間の都合により実施できなかったが、その他3年生による発表会や全校生徒対象の講演会は実施した。また、授業等においても主権者としての意識醸成に努めた。		